

議会議案第22号

新ごみ焼却施設について最終候補地とされた山崎浄化センター周辺の住民の負担を鑑みて、鎌倉市に対して、住民の声を真摯に傾聴し、住民との熟議を要請する決議について

新ごみ焼却施設について最終候補地とされた山崎浄化センター周辺の住民の負担を鑑みて、鎌倉市に対して、住民の声を真摯に傾聴し、住民との熟議を要請することに関し、次のとおり決議する。

平成28年10月 3 日提出

提出者	鎌倉市議会議員	竹	田	ゆかり
同	同	上	長	嶋 竜 弘
同	同	上	渡	邊 昌一郎
同	同	上	上	畠 寛 弘
同	同	上	松	中 健 治

新ごみ焼却施設について最終候補地とされた山崎浄化センター周辺の住民の負担を鑑みて、鎌倉市に対して、住民の声を真摯に傾聴し、住民との熟議を要請する決議

松尾市長は、新ごみ焼却施設について最終候補地を山崎浄化センター（山崎下水道終末処理場）の敷地内と決定した。事前に近隣住民に対して何ら説明をせずに選定したことから近隣住民の不信感が増している。

ごみ焼却施設は、行政運営においては自区内処理の原則にのっとり、必要な施設であることから、鎌倉市内のいずれかの場所に必ず建設しなくてはならないが、選定においては、地域ごとの負担の平等性・公平性に鑑みた判断が必要であることは言うまでもない。しかしながら、ごみ焼却施設という性格上、迷惑施設の性格を有することから、建設予定地となった地域からは当然反対の声が上がり、実際に山崎浄化センターの敷地内に新ごみ焼却施設建設を決定したことで、近隣町内会、自治会が「新ごみ焼却施設建設に反対する住民の会」を結成し、方針の撤回を求められている。

そもそも当該地においては下水道終末処理場が存在しており、これまでも近隣の住民の方々は臭気等の環境問題に悩まされており、かつて山崎浄化センターを受け入れるかわりに、近隣地域に還元するため、山崎浄化センターの西側の建物上部を利用したスポーツ施設の設置を検討すると鎌倉市は山崎西町内会に約束していながら、いまだに履行されていない。

さらに松尾市長は、1期目の選挙の際に当該地に建設を予定された生ごみ資源化施設の方針を撤回するとうたい、実際に当選後、白紙撤回したにも関わらず、新ごみ焼却施設の最終候補地を当該地に決定したことによって、近隣住民は、たびたびの市の方針転換に翻弄され続けている。

もはや山崎浄化センターの近隣住民は、松尾市長初め鎌倉市に対しては強い不信感を抱いており、鎌倉市議会に対してもさまざまな要望や陳情を出されている。鎌倉市議会としては、これまで市の下水処理事業、山崎浄化センターについては、近隣住民の御理解と御協力があったからこそ、円滑に運営することができたことに感謝しているところである。以上を踏まえ、鎌倉市に対しては、新ごみ焼却施設建設候補地選定結果説明会において松尾市長が「私が市長である以上、方針は変わらない」と発言したような態度は改め、山崎浄化センター近隣の住民の負担を鑑みた上、住民の声を真摯に傾聴し、住民との熟議を要請する。

以上、決議する。

平成28年10月 4 日

鎌 倉 市 議 会